

平成27年度全国学力・学習状況調査を踏まえた 分析と改善方策について

印南町立清流中学校

1 調査の概要

(1) 調査日 平成27年4月21日(火)

(2) 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 調査内容

調査の対象 中学校第3学年 17名

教科に関する調査 国語、数学、理科

- 主として知識に関する問題(A)
- 主として活用に関する問題(B)

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 生徒質問紙調査 ----- 学習意欲、学習方法、学習環境、
生活の諸側面等
- 学校質問紙調査 ----- 指導方法に関する取組や人的・物的な
教育条件の整備の状況等

2 教科に関する調査結果の概要

国 語

○話す・聞く能力、読む能力に課題が見られるが、漢字や語句に関する理解度はおおむね高い。

○選択式や記述式の問題はおおむね正答率が低く、短答式の問題においては正答率が高くなっている。

(1) 国語A (知識)

- ◇「漢字を書く（ビョウソク五メートルの風が吹く）」は、すべての生徒ができている。[A⁹一 100 %]
- ◇「運筆の際の説明に対応する部分として適切なものを選択する」は、すべての生徒ができている。[A⁹五 100 %]
- ◇「古典の作品名を漢字で書く」は、ほとんどの生徒ができている。
[A⁹七 2 88.2 %]
- ◆「『青い』と『青さ』の品詞として適切なものを選択する」は、文法の理解に課題がある。[A⁹四② 17.6 %]
- ◆「用いられている表現の工夫として適切なものを選択する」は、半数以上が理解できていない。[A³一 47.1 %]

(2) 国語B (活用)

- ◇「フリップを作成する際に取り入れたポイントとして適切なものを選択する」は、ほぼすべての生徒ができている。[B¹二 94.1 %]
- ◇「ウェブページの文章の内容について述べた文の空欄に当てはまる言葉として適切なものを選択する」は、ほとんどの生徒ができている。[B²一 88.2 %]
- ◆「文章の最後の一文があった方がよいかどうかについて、話の展開を取り上げて自分の考えを書く」は、非常に正答率が低い。[B³三 29.4 %]
- ◆「演奏するタイミングを選択し、その理由をノートの内容と結び付けて書く」は、半数以上の生徒が理解できていない。[B¹三 41.2 %]

平均正答率 (%)

学習指導要領の領域等	国語 (A)	国語 (B)
話すこと・聞くこと	75.0	70.6
書くこと	75.3	37.3
読むこと	83.5	63.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.8	—

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

数 学

- 図形では基本的性質を活用する問題は正答率が高い。
- 選択式の問題は正答率が高いが、記述式や思考力を問う問題に課題がある。

(1) 数学A (知識)

- ◇グラフの傾きが速さを表すことを全員が理解している。[1]2100 %]
- ◇正負の数の計算は意味も理解してきちんと計算ができている。
[1](2)94.1 %、[1](4)88.2 %]
- ◆文字を用いた式で数量の関係を説明する問題に誤答が目立つ。
[2](4)35.3 %、[2](3)47.1 %]
- ◆正の数と負の数の乗法の意味の理解についての正答率が低い。
[1](3)58.8 %]

(2) 数学B (活用)

- ◇示された例題をもとに予想が成り立つことを見出す問題の正答率が高い。
[2](1)82.4 %、[2](3) 70.6 %]
- ◆数学B 2は数学A [2](4)の短答式を記述式に変えた問題であるが、文字を用いた式の表現の仕方で戸惑っている生徒が多く見られる。217.6 %]
- ◆文章から立式する問題では、説明文が複雑になると与えられた情報から必要な情報を選択し的確に処理することに課題がある。117.6 %、[5](3)41.2 %]

平均正答率 (%)

学習指導要領の領域等	数学 (A)	数学 (B)
数と式	64.2	52.9
図形	64.7	32.4
関数	62.5	24.7
資料の活用	57.4	20.6

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

理 科

○選択式の問題はおおむね正答率が高く無解答もないが、記述式の問題は無解答も見られ、説明を書いたり科学的に考察する問題に対して苦手意識をもつ生徒が多い。

○生物的領域はおおむね正答率が高く、物理・地学的領域は苦手な生徒が多い。

(1) 理科A (知識)

◇塩化ナトリウムを化学式 (NaCl) で表す問題は、多くの生徒ができています。

[1] (1) 82.4%

◇デンプンが消化酵素によって、分解されて最終的にできる物質の名称を表す問題は、多くの生徒ができています。

[7] (1) 76.5%

◆オームの法則を使って、抵抗の値を求める問題は、計算ミスをする生徒や無解答の生徒が 11.8%いるので、計算の仕方を確認させ問題を多く解く機会を与える必要がある。

[5] (1) 58.8%

(2) 理科B (活用)

◇実験結果の分析により、キウイフルーツがゼラチンを分解することができると指摘する問題は、多くの生徒ができています。

[7] (2) 82.4%

◆露点測定において、最も高い湿度の時刻を指摘することができる生徒は少ない。露点の意味や気温と湿度の関係について理解を深める必要がある。 [3] (1) 23.5%

◆音の高さは「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画する問題ができる生徒は少ない。音の高低、大小を決めるものは何かを再度確認させる必要がある。

[6] (2) 23.5%

平均正答率 (%)

学習指導要領の分野・領域		理科
1分野	物理的領域	46.2
	化学的領域	54.6
2分野	生物的領域	62.7
	地学的領域	41.2

全国平均に比べて5ポイント以上 上回る (青字)・下回る (赤字)

3 質問紙調査の結果の概要

(1) 勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う生徒の割合は、国語・理科ともに全国や県よりも大きいですが、数学は全国や県より小さい。

	国語	数学	理科
学校	70.5	52.9	94.1
県	49.9	54.0	57.9
全国	60.5	56.0	61.9

(2) 授業の内容が「よくわかる」「どちらかといえば、よくわかる」と思う生徒の割合は、国語・数学・理科ともに全国や県を大きく上回っている。

	国語	数学	理科
学校	82.3	82.4	94.1
県	70.2	72.8	67.0
全国	74.3	71.6	66.8

(3) 授業時間以外に全く勉強しない生徒の割合は、平日では全国・県に比べ小さく皆無である。同様に、休日に全く勉強をしない生徒の割合も、全国や県に比べて小さい。一方、平日1時間以上勉強をしている割合は、学校76.5、県67.2、国69.0であることから、全国や県より1時間以上勉強している割合が大きい。

	平日	休日
学校	0	5.9
県	7.3	17.5
全国	5.3	10.6

(4) 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを「工夫している」「どちらかといえば、工夫している」と答えた生徒の割合は、県より大きく全国より小さい。

学校	47.1
県	43.7
全国	54.0

(5) 「家の人と学校での出来事について話をしますか」について、「している」と答えた生徒の割合は全国・県を上回っている。

学校	52.9
県	43.8
全国	43.6

(6) 今住んでいる地域の行事に「参加している」「どちらかといえば参加している」と答えた生徒の割合は、全国や県を上回っており、地域と関わっていかうとする意識が高い。

学校	52.9
県	39.7
全国	44.8

(7) 「自分には、よいところがあると思いますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国や県を大きく上回っている。

学校	82.3
県	66.9
全国	68.1

(8) 「読書は好きですか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国や県を大きく上回っている。

学校	82.4
県	61.5
全国	67.9

(9) 「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことはありますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は全国や県を上回り、大多数の生徒が達成感や成就感を感じている。

学校	94.1
県	76.6
全国	84.2

(10) 「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができると思いますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、全国や県を大きく上回っている。

学校	76.5
県	56.5
全国	62.9

4 調査結果を踏まえた改善方策

(国語)

- ・漢字や語句の意味などの言語に関する知識を身に付ける授業展開を工夫していく。
- ・文章の内容を読み取る力や自分の考えを表現する力が不足しているので、授業で思考を深めたり表現する機会を数多く設け取り組ませていく。
- ・文法の理解度が全体的に低く苦手意識を持つ生徒が多いので、プリント学習を定期的に取り入れ定着を図る。

(数学)

- ・数学的な技能の習得とともに、式の変形や文字を用いた式で数量の関係を説明する練習を重ねていく。
- ・複雑な文章から課題解決に必要な部分を順序立てて読み取る練習をさせる。
- ・証明などの文章表現をするときは、考え方の手順や適切な表記方法等をきちんと把握させていく。

(理科)

- ・生徒自身で課題を設定し、取り組めるような授業づくりを工夫する。
- ・基本的な知識はあるが、関連づけて説明することを苦手とする生徒が多いので、実験・観察の過程や考察等を説明する機会を多く取り入れる。

(質問紙)

- ・国語、数学、理科とも授業の内容が理解できていると回答している生徒の割合が全国や県と比べ大きく上回っている反面、数学が好きと回答した割合が下回っているため数学的な活動や指導方法の工夫を多く取り入れるなど主体的な学びを増やし改善していく。
- ・家庭での学習や予習など自立的な学習態度が身につけている状況が見られるが、2時間以上家庭学習する生徒の割合が県、全国よりも小さく、今後さらに課題の内容、提示等工夫し、それぞれの生徒が家庭学習の時間を増やすよう取り組んでいく。
- ・自分の思いや意見を工夫を凝らしつつ自信をもって表現することに課題も見られ、ペア学習やグループ学習、発表会等意見を交流する機会を増やし成功体験を積み重ねることで自己発言能力の育成に取り組んでいく。
- ・読書をしている割合が全国や県に比べて高く、これは本校が従来取り組んできたブックトーク等による取組や図書委員会等の働きかけの効果が現れている。

- ・各教科の授業では言語学習の充実に取り組んでおり、今後も和歌山の教育基礎・基本3か条の徹底を図っていく。
- ・総合的な学習の時間でふるさと学習に取り組んでおり、県や全国よりも地域と関わりを持とうと意識する生徒の割合が大きい。今後もふるさと学習の充実に努め、地域に学ぶ取組を継続していく。
- ・学級活動で各行事等により達成感や成就感を感じる生徒の割合が全国や県を大きく上回り、今後も一人ひとりが活躍できる場をより多く提供し自己有用感を高めていく。

※一部を取り出しての2次利用、また再配布を禁ず。 印南町教育委員会